【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】令和6年11月19日(2024.11.19)

【公開番号】特開2023-82632(P2023-82632A)
【公開日】令和5年6月14日(2023.6.14)
【年通号数】公開公報(特許)2023-110
【出願番号】特願2021-196554(P2021-196554)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｌ 33/62(2010.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｌ 33/62

【手続補正書】
【提出日】令和6年11月11日(2024.11.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
立設部１８ａは、板状金属のリード１２ａの一部を折り曲げて形成されている。形成前の立設部１８ａは、発光装置１０の外側面に沿った直線の折り曲げ辺を起点に、当該折り曲げ辺に直交する２つの短い切れ目（図示せず）と当該折り曲げ辺に平行な長い切れ目３５によって区画された矩形領域として形成されている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７１】
リードフレーム１２１において、リード１２ａは、立設部１８ａをリードフレーム１２１の各長辺に沿って２つずつ有している。２つの立設部１８ａのうち一方の立設部１８ａは、透孔３６に対してリード１２ａの周縁側に位置し、他方の立設部１８ａは、透孔３６に対して開口部２０側に位置している。本構造は、リード１２ａの短辺側にも設けることができる。また、リード１２ｂ側にも設けることができる。このように、立設部１８ａをリード１２ａの周縁側及び開口部２０側に設けることにより、枠体１１との一体性（機械強度）を向上することができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７２】
第２実施例のリードフレーム１２１によれば、図１３Ｂに示すように、スリット３９は、横断面が上側の幅狭部と下側の幅広部とからなる段差を有している。枠体１１の樹脂は、図３で説明したように、スリット３９内にも進入して固化している（図１３Ｂでは枠体１１の図示省略）。